

空に浮かぶ平らな稜線

比良山系・武奈ヶ岳／蓬莱山 (2024/4/27-29)

L : A原、T野、T山、K野、H口

今年のGW前半は関西遠征をすることになった。コトの発端はAねーさんである。以前Aねーさんが琵琶湖北西部を歩いた際に湖畔西側を走る JR 湖西線に乗り、その時窓外に比良山系が真っ平らに連なっているのを見て「あそこ歩きた〜い」と思ったそう。比良比叡トレイルと言うそうだが、北は近江高島から南は比叡山まで歩行距離が全長 80km も続く長いコースである。今回はその中でも武奈ヶ岳から蓬莱山までの中央部分を歩く計画である。琵琶湖を縁取るように歩くなると面白そう。それに関西遠征ということで名古屋在住のK野ちゃんが参加することになったのも嬉しい。しかもK野ちゃんは前泊場所まで提供してくれた。

K野宅で一寝入りさせてもらった後、大きなK野車に荷物を積み替え 5時に名古屋を出発。ここまでも結構な距離を走ってきたが琵琶湖まではさらに2時間掛かる。

空の色は湿っぽかったが徐々に回復するらしい。直前までの雨予報が好転してくれたおかげで当初の計画通りに歩くことができそう。

琵琶湖大橋を渡って進行方向左上の山上にロープウェイ駅が見えた。

「これからあの高さまで上がらなくちゃいけないんだ」とT野さんが言った。それはせりあがった高い壁のようだった。標高差で1,000mもあるのだから。

比良駅から山の方へ入ったイン谷口の駐車場に車を止め 10:20 ここから歩き始める。大山口で沢を渡ってから登山道は上りとなる。登山道は石で縁取られよく整備されていた。ストックを忘れたK野ちゃんは杖を拾っては杖代わりにした。

50分ほど上った“かもしか台”の標識の所で一本目の休みを取った。この辺りから登山道沿いにピンクのイワカガミが目を楽しませてくれた。

「春の山はいいね。春の花が咲いていて」と花好きのTさんの声が弾む。

イワウチワやシャクナゲなどを見つけながら標高を上げて行くといつしか登山道はガレ石の道となり歩きにくくなってきた。

一本調子の上りの道も神爾の滝方面からの道と合わさると

「あっ、あれが北比良峠じゃない。」

Aねーさんが指さした先にポツンと開けた平地が見えた。



12:00、北比良峠に到着。うっすらと芝で覆われたゴルフのショートホールみたいな広場であった。開けた東側には琵琶湖の眺めが広がっている。湖にポコンと浮かぶ沖島もよく見える。今日は琵琶湖の夜景を愛でながら宴会をしようという計画でここをベースにする。真ん中の一番眺めの良さそうな所には既に先客が腰を下ろしていた。この後からも人が来るだろうから今のうちにいい場所にテントを張っておくことにしよう。4人用テントと1人用テントを並べて張った。

張ったテントに不要な装備をデポして 12:35、武奈ヶ岳に向けて出発。峠からの下りの道は砂礫がV字に削れていて歩きにくい。下り切るときれいな沢が流れていた。帰りにここで水を汲んで戻ろう。

湿原の八雲ヶ原には大小の池がある。小さな池を覗くと何やら黒く動くものがある。イモリだ。目を凝らすと何匹も居て、泳いだり、プクッと水中で息を吐いたり、何より手足の指が可愛い。

大きな池の周りには結構な数のテントが張られていた。小さなテントが多かった。水の確保がし易いことに加え、ひっそりとぼっちキャンプを楽しみたい人にはこっちの方がいいのかもしれない。

「イモリとヤモリはどう違うの」とか話しながら進むと“イブルキノコバ”なんて言う何やらややこしい名前の標識があり、ここから森林帯に入っていく。

森林帯を抜けるといよいよ武奈ヶ岳への上りとなる。今まで歩いてきた道よりだいぶ足場が悪くなる。しかし山頂はもうすぐ。

13:45、比良山系の最高峰、武奈ヶ岳に到着。眺めはすこぶる良い。琵琶湖は南北に伸び、右手には渡って来た琵琶湖大橋が小さく見える。対岸左に三角に見えるのは伊吹山。後ろを振り返れば小高い山々を越えた先に明日行く蓬莱山が見える。ブナに覆われた周りの山はまだ浅い芽吹きの色をしている。

「風が～吹いている～♪」とAねーさんが突然歌い出した。いい眺めだった。



帰路は先ほどの森林帯の一本南側の斜面を下りた。ブナの林を通る時、「何かこっちのブナは肌の色があんまり良くないねえ」とTさんが言っていた。下り斜面の途中で北比良峠が見え、我々の他にもテントが張られているのが見えた。

八雲ヶ原の先の沢で水を汲んでから 15:25、北比良峠に戻ってきた。我々の他にも5～6張りのテントが立てられていた。先に張っておいて良かった。

じゃあ、さて、天気もいいので外にマットを敷いてじわじわと宴会モードに入る。「はい、そこに立ってる人、テントの中からアレ持ってきて」とか言ってると思ったらいつの間にやら食当のAねーさんはじゃがいもでガレットを作って出してくれた。こういうのをチャチャッと作ってしまうんだからすごい。そしてメインはタケノコとナスがたくさん入ったグリーンカレーが登場、これも美味しかった。

「ほら、あそこ、一番星、見える？」とTさんが声を上げる。

他のテントの人たちも夕食タイムとなっているが、大人数の人たちも何だかおとなしい。我々、端の方にテントを立てて、みなさんのためにも良かったみたい。

星が増えてきて、目的の夜景もきれいに見えてきた。明日は行程も長いし、湖から上がる日の出も見たいから4時に起きることにして8時半に就寝とした。

早朝は冷えるのでテントの中で朝食とする。早立ちということで食当のTさんが用意してくれたのはお茶漬けであるが、トッピングに持ってきてくれた“島海苔”がめっちゃめっちゃグーであった。

テントを出ると琵琶湖の水面は水蒸気で覆われ沖島や周囲の山々が雲海の上に浮かんでいるようだった。やがて空に紅色が混じり出した。

しかし陽は湖からでなく左手の山から上がるようで残念ながら期待したザ・日の出とはならなかった。

5:35、朝日が眩しい中を出発。金糞峠へ向かう。このルートは“しゃくなげロード”と名付けられており、その名の通り両脇にはしゃくなげの木が続いている。しかし花自体はポツツ、ポツツ、という程度だ。まだ時期が早いのかと話していたら「きっと今年は裏作なんじゃない」と花に詳しいTさんが説明した。少ないながらも咲いているしゃくなげはゴージャスな感じがする。

金糞峠を越えて堂満岳に上る。ここからも琵琶湖の眺めはいい。おまけに山頂にはしゃくなげがまとまって咲いていたのでしばし撮影タイムとなった。

南比良峠に下りそしてまた烏谷山（からとやま）に上り返す。下からは平らな稜線に見えても実際には凸凹を繰り返しているのだ。

途中から琵琶湖を見下ろすと、ちょうど湖面の水蒸気が中心部に集まり、西側と東側を結ぶ天橋立のように伸びていた。こんな風に見えるのも面白い。

烏谷山の三角点からは目指す蓬莱山がくっきりと見えた。斜面の黄色っぽい部分が水仙畑に違いない。風もなく穏やかな晴れ間の中、平和な景色だ。すると

「あれ、もしかして白山じゃないか」と反対側に目を凝らしていたT野さんが声を上げた。え～、こんな所から見えるんだ。

木戸峠に行くまでに比良岳があるが、登山道からちょっと入った所に座している。アップダウンを繰り返して疲れてきたので

「そのままスルーしちゃってもいいんじゃない」なんて意見も出たけれど、比良山系の“比良”の名を冠した山に寄りたくないわけにはいかないじゃないかということで立ち寄ることにした。

しかしそこは名の通り平らな山頂で眺望も無かった。登山道へはピストンで戻るよう地図には太線で出ているが、点線で登山道の先に出る道もある。不鮮明ということらしいが、これでも我々は山の会の者たちである。点線で行ってやろうじゃないかい。

踏み跡はうっすらしているがわからないわけではない。苦労すること無く先の登山道に出た。ただしこの合流点側から山頂方面へ踏み跡を辿ろうとすると平らな部分が落ち葉で不鮮明でわかりにくそうだ。

沢が絡んできてぬかるみが出てきた。木戸峠にはお地藏さんが並んでいた。少しずつ比叡山の影響が出てきているのを感じる。

木戸峠から少し下ると手洗い場みたいなのが並んでいた。びわ湖バレイスキー場の一角に入って来たのだろう。ここからは見るからにゲレンデというスロープを上って行く。どこを上がって行ってもいいのだが、人工的な斜面をジグ切って上って行くのはどうにも疲れる。そのせいかTさんの足が遅れてきた。

9:45、ゲレンデを上がり切った所が打見山であるが、ここはロープウェイ駅になっており、湖側から上がって来た観光客であふれていた。水仙畑目当ての家族連れやカップルである。みなさん蓬莱山山頂までリフトを2本乗り継いで行くようだ。しかし我々はマインド的にも身だしなみからもリフトには乗らず最後まで歩きを貫く。

広大な斜面を使った水仙畑はちょうど見ごろの時期。黄色一面の斜面には縦横斜めに道が付けられ、みんな花と一緒に写真を撮っている。我々も花に近づき写真を撮る。周りとは違和感がありそうだがこんな集団が居たっていいでしょう。



お花畑でゆっくり時間を過ごした後、もうひと上りして 10:25、蓬莱山山頂に到着。振り返った先には武奈ヶ岳が見える。正面にはもちろん琵琶湖。そして南へと登山道が続く先には比叡山が座している。“蓬莱”とは仙人の住む地のことらしいが、この山容やここからの眺めはそれにふさわしいと思えてくるのは天気がいいせいかしら。

さて、それでは下り始めようという時に「アタシ小女郎峠からここに戻ってロープウェイで下りようかしら」とTさんが言い出した。長い下りで膝に負担が掛かるのを心配したのだ。しかしパーティーを分けるべきではないということで一緒に下りることを納得してもらった。

小女郎峠までは琵琶湖を眺めながら歩ける開放的な道だ。天上の散歩道みたいで、ずっとこんなのが続いていたら愉快だ。



小女郎峠に荷物をデポして小女郎ヶ池に寄り道した。1,100m もの高層にある池。池のほりにある案内板にはこの池に由来する恐ろしい話しが書いてあったが、それを癒すかのように水芭蕉が一輪だけ咲いてくれていた。

小女郎峠の標識には南東を指して『JR 蓬莱駅』と何気なく書かれてあるが、何せここから下り 2 時間の距離がある。11:10、下りに掛かるが、狭く急で足場が悪い。Tさんが心配していた通りではあった。

しかし意外とここを上がって来る人が多い。単独はもちろん、学生の団体や子連れまで。でもここを上がってくるのはキツイな。

途中から沢が絡み、薬師ノ滝を越えてようやく舗装路に出た。しかし地図を見るとここからもまだ長い。

市街地に出ると路地という路地からこちらを窺うように出迎えるのは滋賀県名物の飛び出し坊や“とび太くん”。なぜにこれほどまでにとにかくの人数である。きっと信号の数より多いだろう。

ついに 13:40、蓬莱駅に到着。湖西線に乗って比良山系を見上げ、2 駅先の比良駅で降りた。駅でタクシーを呼びK野ちゃんに車を回収しに行ってもらった。

比良とぴあで温泉に入って、食材を確保してから野営場所を探しに車を走らせる。琵琶湖の東岸は湖岸緑地というキャンプ場になっていて、今日はこのいずこにテントを張らせてもらう。

日が暮れてきた。波の音が大きい。湖畔に近づくと琵琶湖の水は風向きにせいか南から北に向けて大きな川のように流れていた。対岸には平らに山が連なっているが、中でもひとときわ明るいのは比叡山らしい。今日も一番星を最初に見つけたのはTさんだった。

翌朝、昨夜あれだけ激しく流れていた湖面が今朝はおとなしくなっていた。早出のボートが湖面をゆらす。歩いてきた武奈ヶ岳、蓬莱山はここからだいぶ右の方に位置していた。それらに比べてほぼ正面に見える比叡山周辺の連なりの方が平らに見える。今度はあの辺りを歩いてみたいな。

(H口 記)